「人権について考えました」

＜南風 第12回 12月＞

12月4日から12月10日まで人権週間でした。南小学校でも、人権週間に併せて16日（月）に「あいあい集会」行いました。私が以前、本校に勤務している頃にも行われていた、南小の大切な伝統的行事の一つです。5、6年生の代表児童による絵本の読み聞かせや各クラスで決めた人権標語の発表を行い、みんなで人権について考える良い機会でした。

私も話す機会をもらえたので、全校に人権について考えてもらいました。子どもたちに「人権ってなんだろう？」と聞いても、多くの子は「言葉は知っているけど・・・」という反応でした。そのため、「自分や周りの友だちも一人ひとりがみんな違うことを、お互いに認めて大切にすること」「一人ひとりが自分らしく生きる権利」について話をしました。クラスには、音楽の好きな子、絵のうまい子、字のうまい子、運動が好きな子・・いろいろな人がいるけど、それを認め合って大切にすることで、今よりももっとよいクラス、よい南小学校になってほしいとも話ました。

そして、先日、研修で聞いた話を付け加えました。「心の扉」についてです。

みなさんは心に扉があることを知っていますか。
だれにも心に扉があります。ただ、その扉には、取っ手がついていません。そのため、外から開けようとしても絶対に開きません。閉ざされると、外から強い力で開けようとしても絶対に開きません。

では、人はどんなとき、固く心の扉を閉ざしてしまうのでしょう。仲間から仲間外れにされたり、いじわるされたときだと先生思いますは。閉じてしまった心の扉を開けるにどうしたらはいいでしょう。実は心の扉は内側から開くようになっているのです。心の扉が内側から開く様子は、太陽の暖かさに花が咲くのに似ています。

心の扉にとって「太陽の暖かさ」って何だと思いますか。

みなさんはイソップ物語の『北風と太陽』のお話を知っていますか。北風と太陽が、下を歩いている少年のマントをどっちが脱がせることができるかを競い合うお話です。北風は強風を吹かせて、マントを無理やり力づくでと脱がせようとします。しかし、少年はマントをしっかり押さえるので、脱がせることはできませんでした。次に太陽が暖かい日差しを少年に注ぐと、少年はポカポカ暖かくなってきたので自分からマントを脱ぎ、太陽が勝ったお話です。

太陽のような暖かさとはみんなの思いやり、やさしい言葉だと私は思います。相手の心を閉じさせてしまうような言葉や行動よりも、相手が心の扉を開けたくなるような言葉や行動をしましょう。

みんなの心はみなさんだけの宝物です。それはお友達や周りの人たちからの温かい心やさしい言葉に触れたとき、初めて扉が開き、虹色キラキラと輝きます。
みんなの心が輝くあたたかい言葉や思いやりがいっぱいの南小学校になってほしいと先生たちは願っています。

全校児童が真剣に話を聞いてくれ、うなずいてくれる姿も見ることができ、うれしく思いました。

2024 年もあと残りわずかとなりました。保護者の皆様や地域の方々のご支援、ご協力で我々教職員一同も子どもたちと全力で向き合えています。この喜びを 2025 年も引き続き大切にしていきたいと考えています。